

「がん哲学」意義語る

沼田で
樋野さん

国立病院機構沼田病

院主催の公開講演会

樋野興夫さんの特別講

演に耳を傾けた。

「今を生き、明日に生き
る」が、沼田市の利根沼
田文化会館で開かれ、
地域住民約250人が

樋野さんは、がん細
胞の性質を見極め、そ
の進展を抑える研究か

ら人間や社会のあるべ
き姿を学ぼうとする
「がん哲学」を提唱。生

きるこの意味を考え
るがん患者と、がんの
発生や成長に哲学的な

意味を見いだそうとす
る人との対話の場とし
て「がん哲学外来」を各
地に開設している。

講演で樋野さんは、

がん哲学外来を始めた
経緯や「がん哲学」の考
え方について説明。が

ん哲学外来で多くのが

ん患者と対話し、不安
や悩みについて語り合
った経験から「がん哲
学外来は、がんという
病気の問題を『解決』す
ることはできない。し
かし『解消』することは
できる」とその意義を
語った。

樋野さんの特別講演
に先立ち、「自分らしい
『生き』『死』を考える
会」代表で内科医の渡
辺敏恵さんが講演し、
どんな最期を迎えたい
かを記す「私の生き方
連絡ノート」について
説明した。



「がん哲学外来」について講演する樋野さん